

豊かで健康な毎日はお口から

「食べることは生きること」

町では、歯と口腔の機能を向上させ町民のさらなる健康づくりを推進することを目的として、「多古町歯と口腔の健康づくり推進条例」を県内でも先駆けて平成24年4月に制定しました。今月号では、その歯と口腔の健康づくりに対する町の現状と今後の課題について考えてみましょう。



口腔(口)は、食べ物を体内に取り入れる最初の場所です。食べ物を歯でかみ砕き、舌で味わうだけでなく、口腔は声を出したり会話をしたりコミュニケーションをとる機能も持っています。体の中でも重要な役割を持つ歯と口腔をケアすることは、乳幼児から高齢者までのすべての世代にとっても、大変重要なことです。乳幼児期から成長期の、かむことや飲み込むことの習得は、子どもたちの健全な成長や成人期以降の健康に大きな影響を与え、自ら行う口腔ケアの大切さを学ぶ時期でもあります。そして、成人期の口腔ケアは歯周疾患の予防などに効果があり、歯の喪失と大きな関係があります。また、高齢者や要介護者の口腔ケアは日常生活の質を高めるとともに、元気な高齢者が増え健康寿命が延びるとされています。

町では、「多古町歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づき「多古町歯と口腔保健計画」を策定しました。「豊かで健康な毎日はお口から」の認識のもと、歯と口腔の機能を維持することは、生涯を通じて食べることの喜びや会話できる楽しみにつながり、心と身体の健康に大きく影響します。歯と口腔の健康づくりに関する知識の普及啓発を図りながら、町と関係団体等が連携して取り組んでいます。

町の現状

町民の健康づくりを推進していく計画の作成にあたり、町民の意向や現状を把握するために町民アンケート調査を実施しました。また、各種統計調査などの結果から歯と口腔の健康に関する町の現状の実態について取り上げます。

